

学校 教育 目標	「こころ ゆたかな きくなの子」の育成 ○ 意欲的に問題解決する子を育てます。(知) ○ 自分や相手を大切にすることを育てます。(徳) ○ 心と体の健康な子を育てます。(体) ○ まちを愛する子を育てます。(公) ○ 違いを認め合える子を育てます。(開)				
学校 概要	創立 75 周年	学校長 松瀬 歩	副校長 鎌田 忠裕	2 学期制	一般学級: 28 個別支援学級: 8
	児童生徒数: 921 人	主な関係校: 大綱中学校、上の宮中学校、大綱小学校、大豆戸小学校、太尾小学校、獅子ヶ谷小学校、馬場小学校			

教育課程全体で 育成を目指す資質・能力	大綱中・上の宮中 ブロック	小中一貫教育推進ブロックにおける 育成を目指す資質・能力を踏まえた 「9年間で育てる子ども像」と具体的取組
<ともしにかかわり合いながら学びに向かう力> <思考・判断・表現につながる言語能力> <互いを認め合い、問題解決する力>	大綱中学校・大綱小学校・大豆戸小学校・太尾小学校上の宮中学校・馬場小学校・獅子ヶ谷小学校	・主体的に学習に取り組む子 ・友達や地域とのかかわりを大切にすること ・自分のよさを活かしながら夢や目標に向かってチャレンジすること 【5月】授業研究会(上の宮中学校、大綱中学校参観)、連携協力検討会 【8月】小中ブロック合同研修会(課題研究会)、連携協力検討会 【9月】授業研究会(小学校) 【10月】小中交流日(授業見学、学校説明、部活動紹介) 【2月】情報交換会

中期 取組 目標	○「こころ ゆたかな きくなの子」の育成を目指して、かかわり合い 心をつなぐ学校にします。 ・教職員の学びあいを大切に、個々の能力とチーム力の発揮ができる新たな組織の確立を目指します。 ・心身共に健康な生活習慣の確立と問題解決する力の育成に向けた取り組みを推進します。 ・豊かな人間性の育成のため、互いを認め合う集団づくりを進めます。 ○地域とのつながりを意識し、様々な体験を通して、自分の住んでいるまちを愛する心を育てます。 ・3年間を通して、一人一人が自己有用感をもち、通わせたい通いたいと思える学校生活が送れるようにします。
----------------	---

重点取組分野		具体的取組
知	確かな学力	「できた」喜びを積み重ねることで、自己効力感を高め、粘り強く課題に取り組むことができるようにする。子どもが自分の興味・関心をもとに意欲的に学習に取り組み、協働的な学びの中で、様々な考えがあることを知り、問題解決の喜びを感じ、学ぶ楽しさを実感できるようにする。
徳	豊かな心	①2学年ずつのふれあい活動を充実させ、学級集団だけではなく異学年のつながりを築くようにする。②読み聞かせ、図書ボランティアの方々と活動の充実を図る。また、年間を通して挨拶運動に取り組み、中学校との連携を図る。
体	健やかな体	①ヘルスプロモーションの考え方を重視し、保健学習等を通して自己の体調・健康管理能力を育てていく。②児童会活動や体育、中休み等を通して体力の向上に取り組む。
公開	地域連携	①地域・保護者・外部諸機関等と連携したさまざまな活動を通して、児童が安心して豊かに生活できる学校づくりを推進する。②「まごころの会」(読み聞かせ)をはじめとした地域の教育力を生かした活動の充実を図り、学校やまちを愛する心を育てる。
いじめへの対応		①児童一人一人の心理や特性を見出す児童理解に努め、対策委員会をはじめ、教職員間で共通理解のもとに対応にあたる。②Y-Pやいじめ早期発見のためのアンケート、夏季休業明けの児童との面談等により些細な変化を見逃さない体制づくりをする。③カウンセリングマインドスキルに関する研修を行う。
人材育成・組織運営(働き方)		①メンターチームを組織し、複数回の研修・授業の活動を継続して行う。また、GIGAスクール構想のもと情報機器を活用し、情報の共有化を図るとともに、事務処理の効率化、働き方改革を図る。②定期的に、教務会を行い、ミドルリーダー、学校リーダーが全体を見通して学校運営していく場を設定する。
児童指導		①全学年・学級で「菊名スタンダード」を全教職員が同じ方向で互いを認め合う指導にあたる。②職員会議後半に児童理解の内容を定例化し、児童の状況を共通理解する。また、専任を中心に児童指導上の諸問題について情報を集約し、スクールカウンセラー等の積極的な学校への関わりを進める。
人権・特別支援教育		①誰もが安心して豊かに生活できるよう、コーディネーターを中心に配慮が必要な児童の情報を共有し、特別支援教育や人権に関する研修を行う。②関係諸機関と連携し、定期的に児童の状況を見ていくと共に職員研修を行う。個別的教育支援計画、アセスメントシートを活用し学校として統一した支援や方針をだす。
教育環境整備		①GIGAスクール構想のもと、職員室のパソコンやタブレット端末を利用して紙ベースではなくPC上で情報の共有を図る。②校内の掲示板を各学年ごとに場所を作り、児童の委員会を活用して環境整備を進める。③建て替えによる仮設校移転を機に校内の環境整備を進める。
多文化共生		①外国の文化に触れ、体験を通して多文化に対する理解を深める。②国際交流ラウンジやひまわり、支援アドバイザーなどと連携を取りながら、外国につながる児童の支援をしていく。
担当	国際教室担当	